



北海道大学



「農泊」推進と移住定住に向けた観光戦略

ハッカソンの開催を契機とした 観光・移住戦略について

2020年2月15日

国際広報メディア・観光学院 観光創造専攻

湯澤 真 M1

李 月 M1

山下 知子 履修証明プログラム生

公共政策大学院

近藤 一郎 M2

厚海 洋幸 M1

目次

1



調査の背景と内容



中標津の課題



解決策とその効果



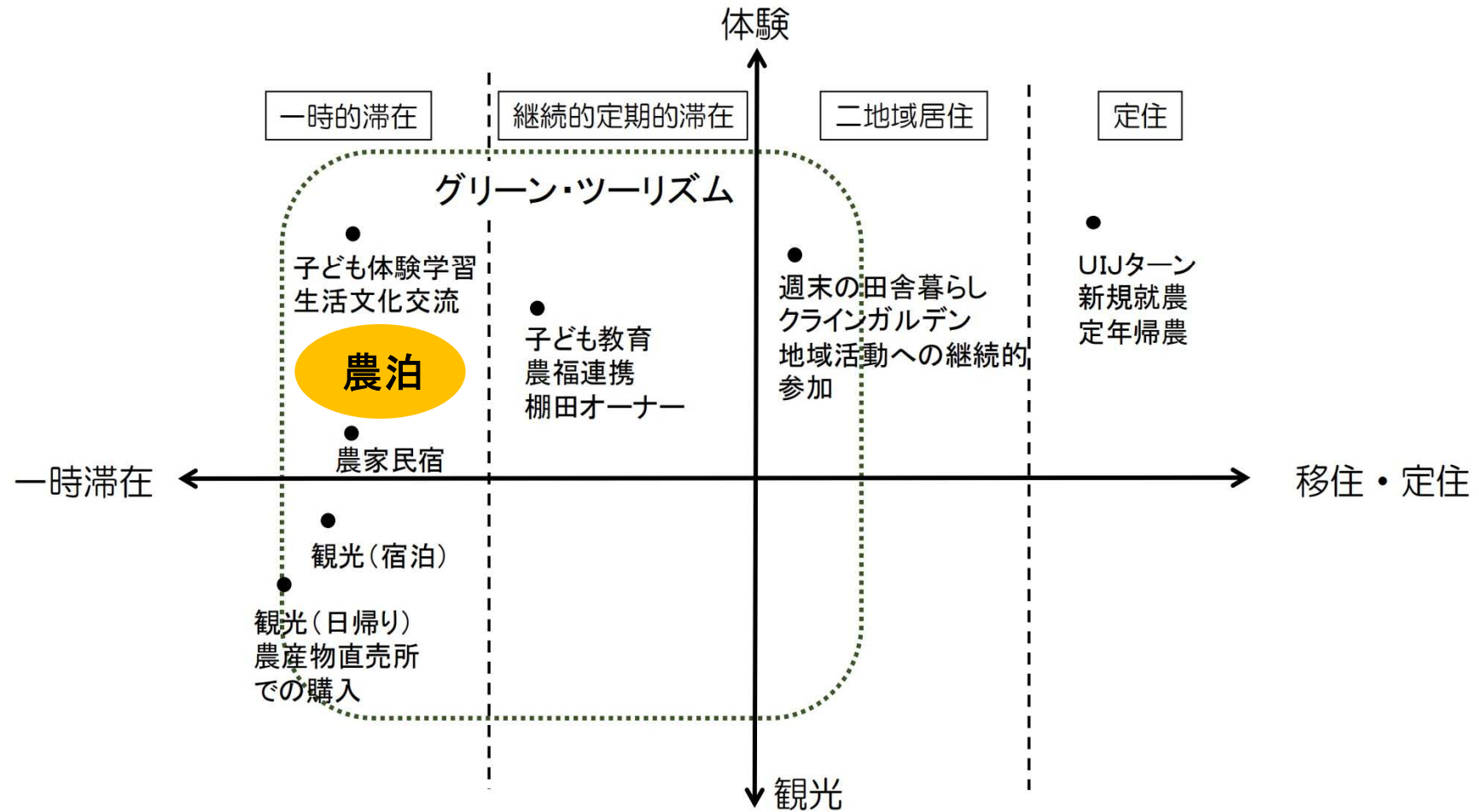
まとめ



北海道大学

調査の背景

テーマ：農泊推進・移住定住に向けた観光戦略



(出典)農林水産省(2012)「平成24年度食料・農業・農村白書」を参考に作成



北海道大学

農泊について



（出典）農林水産省HP「農泊を中心とした都市と農山漁村の共生・対流」
農林水産省「農泊推進の現状と課題について」



北海道大学



①



③



②

- ① 山本牧場 milcream
- ② 物産展などで全国進出
- ③ 佐伯農場



中標津への視察



①



②

- ① ゲストハウスushiyado
- ② オーナー竹下さん
- ③ 芋ほり体験



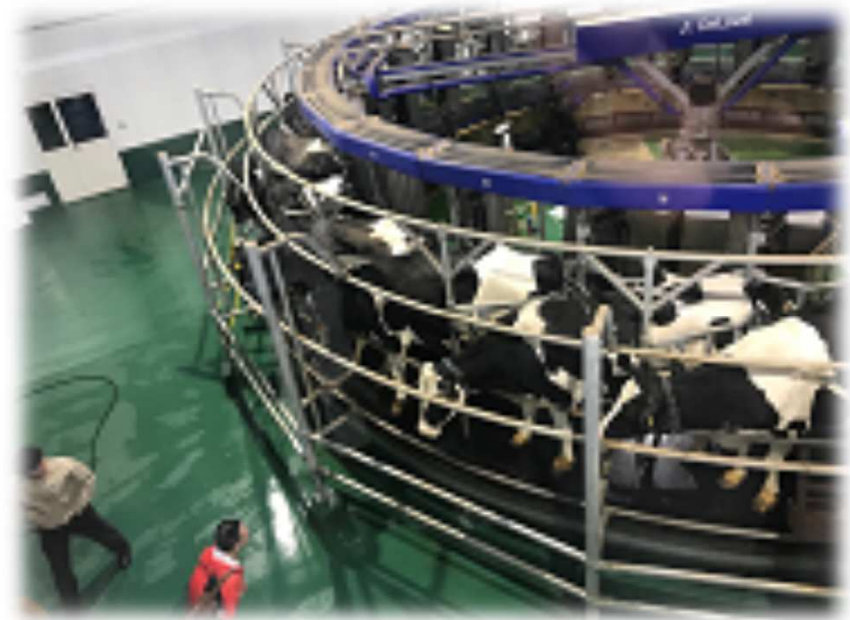
③



中標津への視察



① 希望農場の牧舎



② アジア初となるスウェーデン製の
ロータリーパーラー型搾乳ロボット



中標津のセールスポイント（視察から分かったこと）

（根室管内）酪農先進地ならではの酪農体験

魅力的な観光資源

（北根室ランチウェイ・開湯100年の歴史を持つ養老牛温泉）

根室管内唯一の空港である中標津空港（東京～・新千歳～）



見えてきた課題

防疫問題
おもてなしの負担
アイデア・人手不足

農泊受け入れの農家が少ない・進まない

酪農業の担い手不足・高齢化

日本全体の人口減少



辿り着いた！ターゲットを明確に

当初のテーマ「農泊×移住」推進の観光戦略

調査結果

- ◎農泊 → 機運・環境が不十分
- ◎移住 → ハードルが高い

【命題】「ターゲットを明確にした観光・移住戦略」に設定



ターゲット＝地方に来たい人はいる

図表Ⅱ-2-2 「移住」や「二地域居住」を考える理由や動機(年代別)

	全体	地方で仕事をしたい	農業・漁業に関わりたい	趣味、余暇活動などに適した場所に住みたい	ウィンタースポーツを楽しみたい	田舎暮らしに憧れて	地方の環境で子育てをしたい	アレルギーなどに対する家族の健康への配慮	介護など親元に戻る(近くに住む)	都会から離れたい	都会は生活コストが高つく	その他	特に理由はない
合計	454	94	40	214	26	112	59	20	84	166	241	117	120
		20.7%	8.8%	47.1%	5.7%	24.7%	13.0%	4.4%	18.5%	36.6%	53.1%	25.8%	26.4%
18～29歳	101	33	7	46	5	26	32	1	18	40	40	19	24
		32.7%	6.9%	45.5%	5.0%	25.7%	31.7%	1.0%	17.8%	39.6%	39.6%	18.8%	23.8%
30～39歳	113	19	8	44	7	28	19	7	28	41	71	22	24
		16.8%	7.1%	38.9%	6.2%	24.8%	16.8%	6.2%	24.8%	36.3%	62.8%	19.5%	21.2%
40～49歳	82	19	9	38	5	15	7	3	15	27	47	17	27
		23.2%	11.0%	46.3%	6.1%	18.3%	8.5%	3.7%	18.3%	32.9%	57.3%	20.7%	32.9%
50～59歳	95	14	10	48	8	26	1	4	17	32	49	34	30
		14.7%	10.5%	50.5%	8.4%	27.4%	1.1%	4.2%	17.9%	33.7%	51.6%	35.8%	31.6%
60～69歳	63	9	6	38	1	17	0	5	6	26	34	25	15
		14.3%	9.5%	60.3%	1.6%	27.0%	0.0%	7.9%	9.5%	41.3%	54.0%	39.7%	23.8%

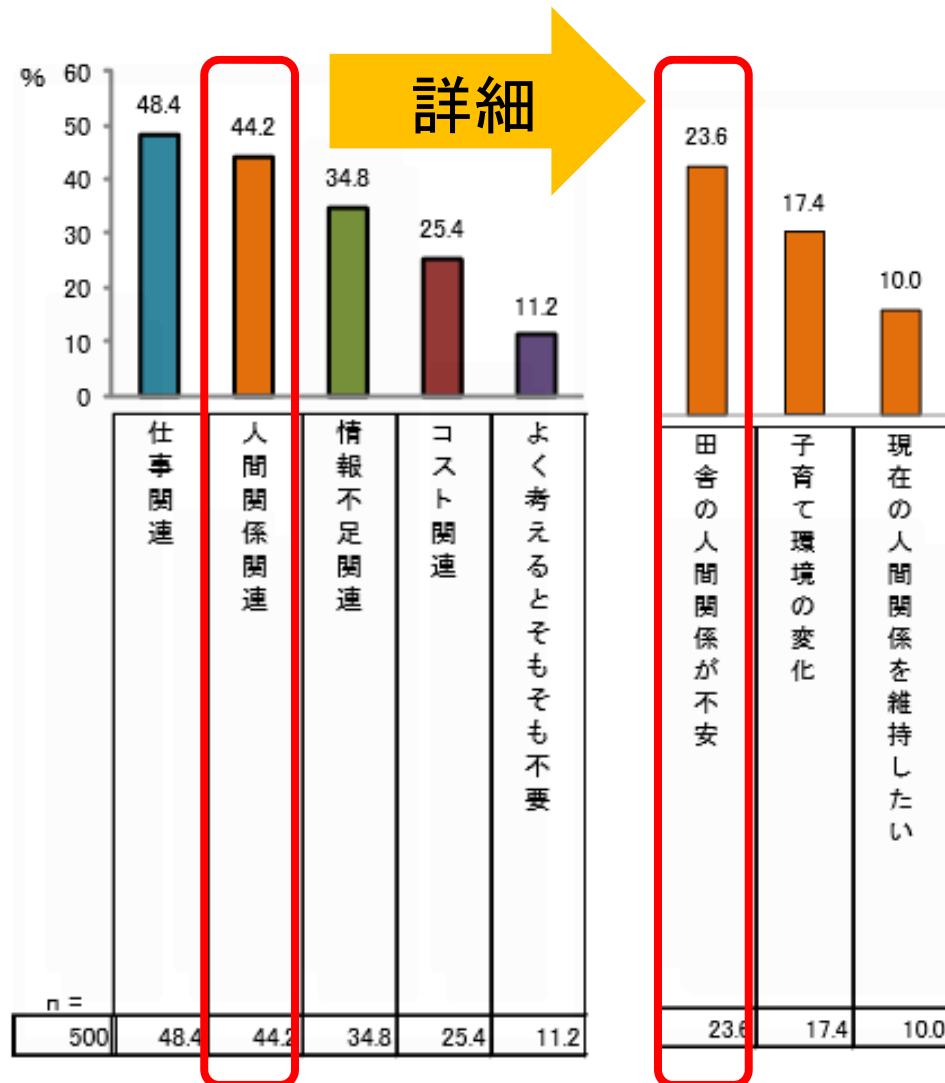
東京の若者は「地方で仕事をしたい」

(出典)北海道版「生涯活躍のまち」構想研究会第3回研究会(2017年1月30日)
資料「東京都在住者を対象とした移住に関するアンケート調査結果」より



北海道大学

こんな課題も…この課題も解決する必要がある



地方への移住を妨げている
大きな要因は何ですか
(複数選択)

移住希望者は
人間関係が不安



不安を取り除くための
人と人との交流が必要

(出典) そうだ、地方で暮らそう！ 国民会議(2018年3月20日)
配布資料「若者の移住」調査より



北海道大学

新たなミッション

農泊による観光振興

- 観光客と酪農家がコミュニケーションを取る場の醸成
- 酪農体験・農泊の試験的な取り組み

関係人口の創出

- 将来的な移住者の獲得のための中標津に関わる人口の創出
- 人間関係不安の解消・きっかけ作り
- 新たな人材と地域住民との交流

担い手不足の解消

- 日本全体で人口減少が進行⇒移住戦略だけでは酪農は維持できない
- スマート農業の推進

新たな交流の場 ➡ イベントが必要…？



心のつぶやき

- ・社会全体で、人口減少するのに立ち向かうには **I T 技術での改善** も必要だな？（5 Gの可能性）

- ・フィールドワーク・現地視察をすれば酪農体験や地域のことをよく知れるし、**人間関係の不安を解消** できるな…（自己体験）

- ・最近はS N Sを使ったコミュニケーション増加している

- ・夏フェスも増えている…

何かイベントは無いものか…
これをまとめられないかな…



そうだ!!
ハッカソン
だ!!



ハッカソンとは？



- ハッカソンとは、システムなどを解析するという意味のある「**ハック (Hack)**」と、42.195キロという長距離を走る「**マラソン (Marathon)**」を合わせた造語
- 技術者（エンジニア、デザイナー、プランナー）がチームを作り、与えられたテーマに対し、それぞれの技術やアイデアを持ち寄り、**短期間（1日～1週間程度）**に集中してシステムやアプリケーションなどを**開発し、成果を競う開発イベント（賞金制もあり）**



ハッカソンの代表的事例



facebookの「いいね」アイコンはハッカソンによって誕生した



ハッカソンを様々なアプリの開発やイノベーションに活用



ハッカソンを新しい交流の場として、新たな技術者の発掘・獲得に活用

新しい人事交流によって様々なイノベーションが生まれている



ハッカソンの事例（北海道）



「IT×酪農×5G」ハッカソンの開催

なぜ中標津？

①中標津空港の利便性

根室管内唯一の空港（新千歳・東京間）

②酪農が盛んな地域

ITを活用した酪農家がいる⇒生産量

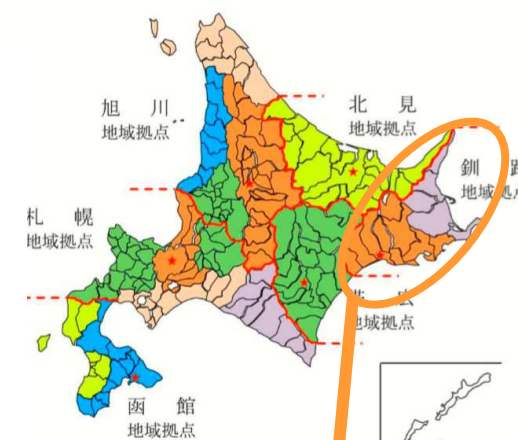
根釧地域は乳量生産トップ（総合振興局ベース）

生乳産出額 1位別海町 475億円 2位中標津町 179億円

③根室管内農村地域における中核都市であり

商圈人口が多く飲食店が多様

根釧地域は生乳生産量道内1位



【産出額】

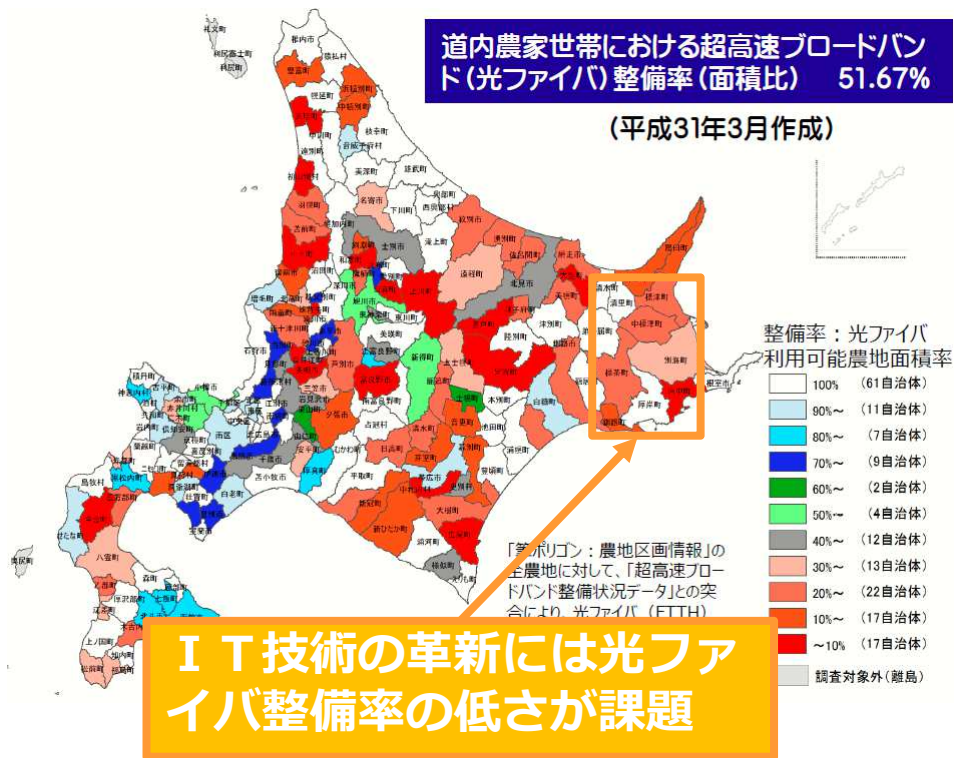
	年	単位	順位
農業産出額	29	1,970 億円	4
米	29	-	-
小麦	29	1 億円	6
大豆	29	x 億円	-
小豆	29	0 億円	6
てんさい糖	29	3 億円	5
ばれいしょ	29	12 億円	6
たまねぎ	29	x 億円	-
トマト	29	x 億円	-
メロン	29	0 億円	5
生乳	29	1,353 億円	1
肉用牛	29	100 億円	5

※2017年北海道農政事務所「ミニ農林水産データ」



2020年より提供が開始される「5G」の可能性

北海道の超高速ブロードバンド整備状況



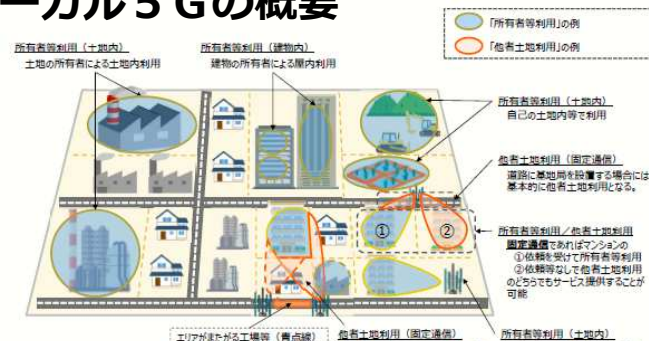
出典：2019年総務省・北海道総合通信局

第5世代移动通信システム(5G)について



超高速・多数同時接続が可能

ローカル5Gの概要



スポット的に柔軟な基地の構築が可能

5Gでは光ファイバ非整備地域でも運用可能



北海道大学

中標津への効果

ハッカソン

酪農業

- ・ 新たな I T 技術の導入
技術革新による作業効率化
- ・ 新規参入障壁の緩和
(3Kの改善等)
- ・ 高齢者の活躍

商業・観光

- ・ 来訪客の増加による、
宿泊・飲食店への経済波及効果
- ・ 来訪者の S N S による
情報発信

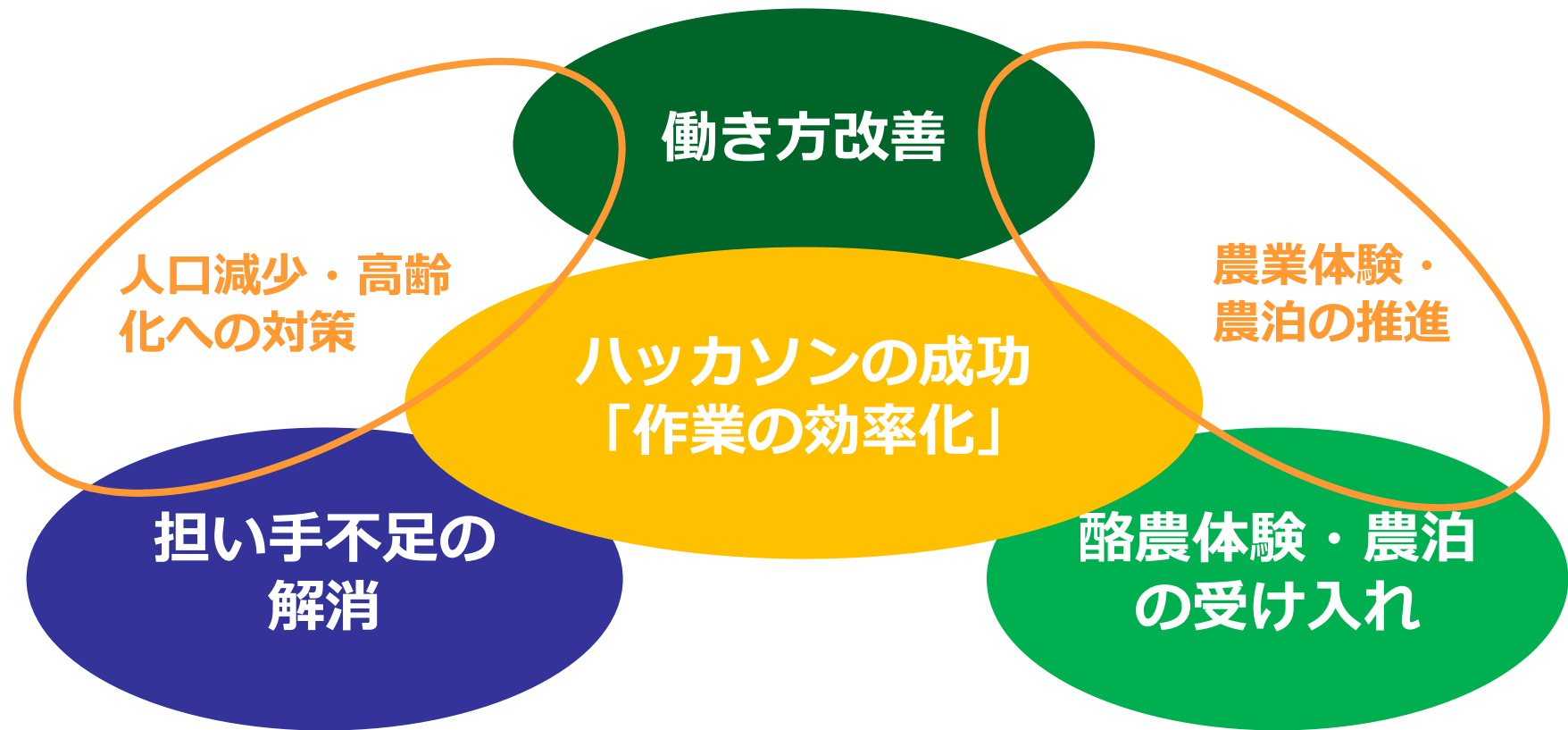
地域づくり

- ・ 新たな人材との交流によるイノベーション
- ・ 移住への障壁である人間関係の不安や移住情報を現地で実際に知ることが可能

ハッカソンの開催によって地域に様々な効果が見込まれる



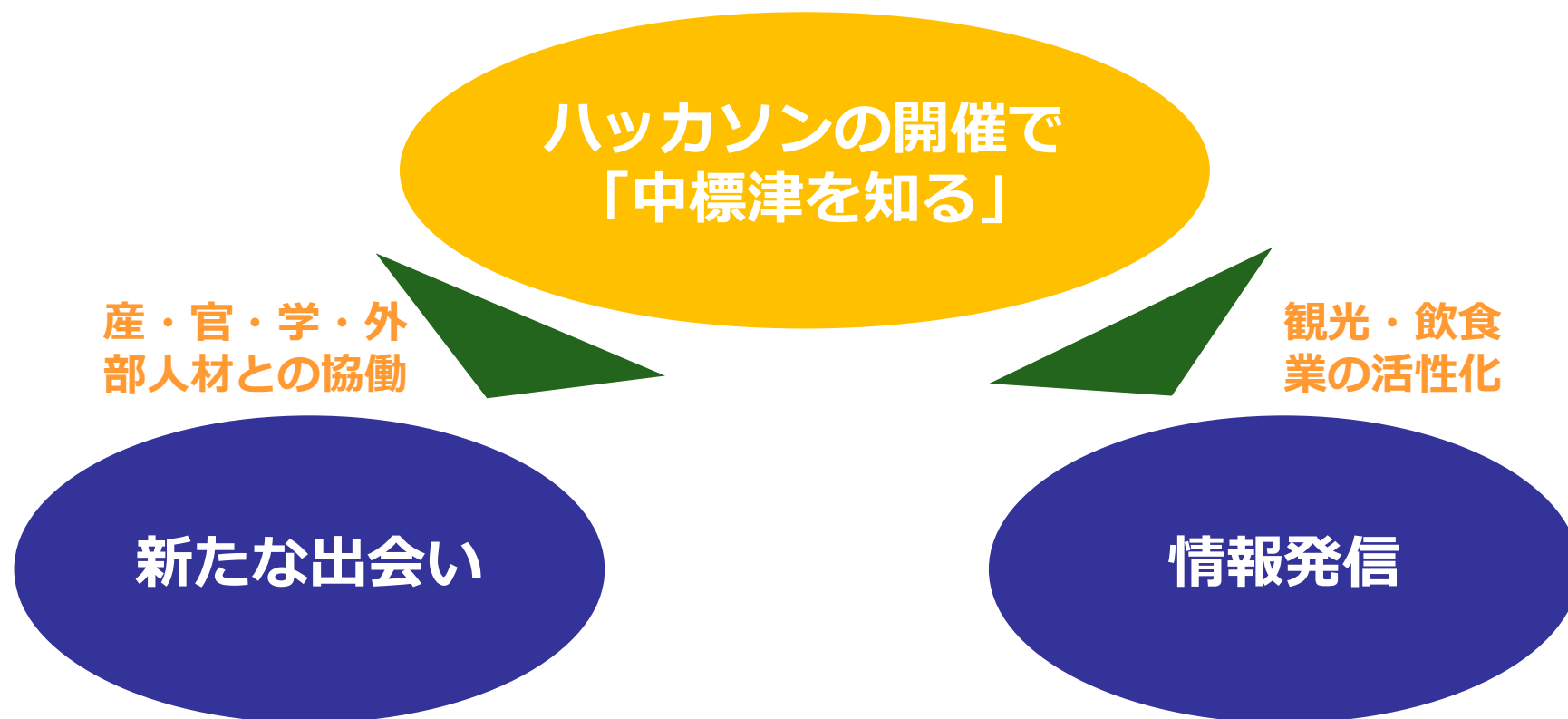
ハッカソンの成功による酪農業への効果



作業の効率化によって新たな可能性が



ハッカソン開催による地域への効果



ハッカソンによって地域へ様々な影響・効果が生まれる



現地で開催するメリット

参加者は地域を体感できる（酪農体験・観光）
(study tour)

飲んで・食べて・しゃべって
地域住民との交流



机上のアイデア（理想）ではなく
地域の「現実」を提案に反映



地域へ与える効果（地域づくり）

ハッカソンの開催によって地域に新たな人事交流が生まれる

- 中標津を深く知り「**中標津ファン**」の獲得
 - ①観光客としての再訪 ➡ リピーターの獲得
 - ②デュアルライフの拠点 ➡ 2拠点居住の推進・テレワーク・ワーケーション
 - ③中標津を愛し移住へ ➡ 定住人口の創出

人と人との交流

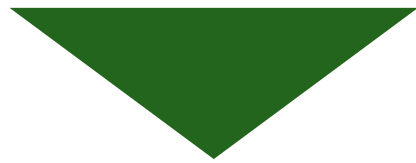
地域の基幹産業（酪農体験）

「ほんまもの体験」で 中標津を知る

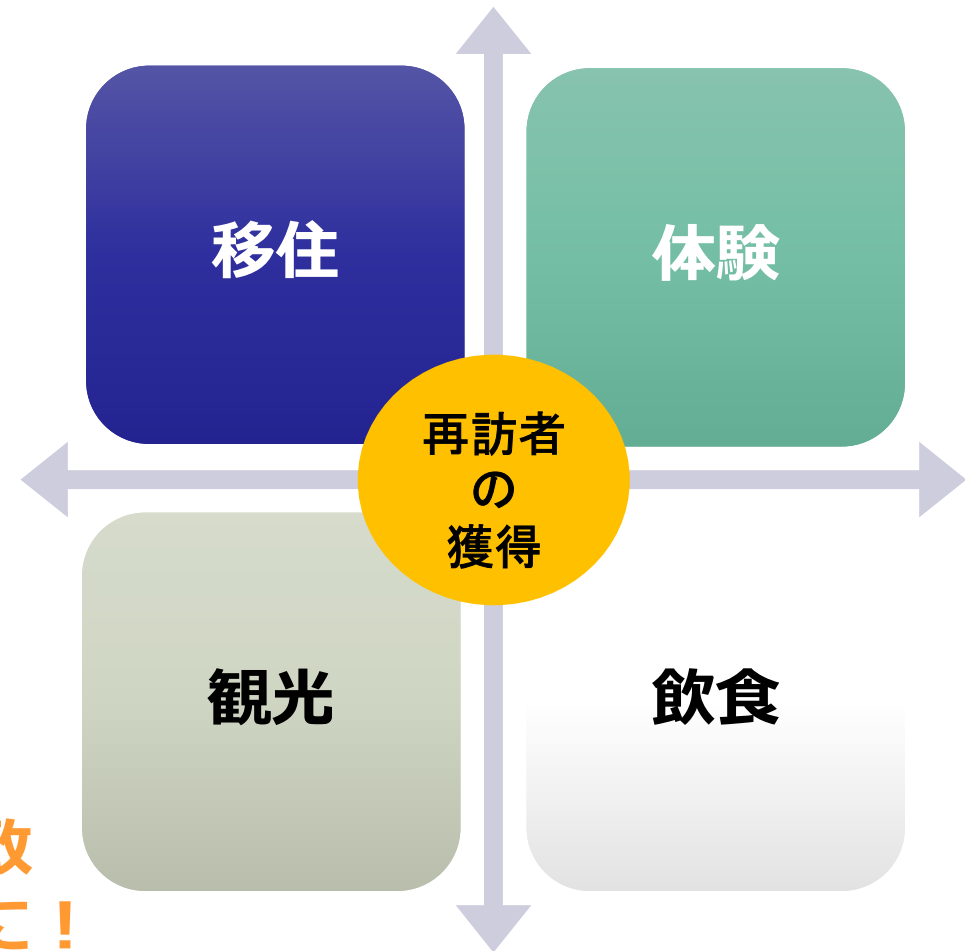


地域へ与える効果（情報発信）

- ・ イベントを通して参加者が
地域の情報を発信
 - ・ 地域食材・飲食店
 - ・ 移住情報
 - ・ 観光コンテンツ



新たな関係人口・観光客の誘致
一人一人がインフルエンサーに！



「ナッカソン（仮）」企画書（案）

・ 開催の主旨 「ハッカソンの開催と観光振興」

都会で開催される従来型のハッカソンではなく実際に現場に来訪し、地域とのコミュニケーションの中でより実装的な成果物を目指すこと。さら酪農体験や観光もフィールドワークに盛り込むことによって副次的な効果を生むハッカソンを開催する。

・ ターゲット

日本全国のハッカソン愛好者・IT技術者・デザイナー・プランナー

・ 開催時期 夏プラン（7月～9月） 冬プラン（12月～2月）

【第1回】アイディアソン（2泊3日）
地域を知り現状・課題を抽出
アイディア（仮説）の創造

【第2回】ハッカソン（2泊3日）
アイディア（仮説）の検証
ITを用いたアプリ等開発等

2回の来訪によって具体的・実装可能な成果物の創造を目指す



「ナッカソン（仮）」企画書（案）

プログラム

●アイディアソン	1日目	15:00~17:00	オリエンテーション、チーム編成等
		17:00~19:00	懇親会
		19:00~22:00	チームミーティング
	2日目	9:00~17:00	フィールドワーク
		17:00~19:00	懇親会（地元の人含む）
		19:00~22:00	チームミーティング （課題やアイディア出し等）
	3日目	9:00~10:00	チームミーティング
		10:00~12:00	発表会
		12:00~13:30	ランチ交流会
●ハッカソン	1日目	15:00~17:00	オリエンテーション （アイディアソンの振返り含む）
		17:00~19:00	懇親会
		19:00~22:00	チームミーティング（方向性検討等）
	2日目	9:00~12:00	フィールドワーク
		12:00~17:00	チームミーティング（ハッカソン）
		17:00~19:00	交流会（地元の人含む）
	3日目	19:00~22:00	チームミーティング
		9:00~10:00	チームミーティング
		10:00~12:00	発表会
		12:00~14:00	ランチ交流会・審査発表会

中標津を深く知るための フィールドワーク（案）

夏プラン

大型トラクター、ランチウェイ
地元交流会、酪農体験

冬プラン

ランチウェイ、地元交流会
温泉地探訪、酪農体験

参加人数

40人（5人×8チーム）

開催場所 開陽台

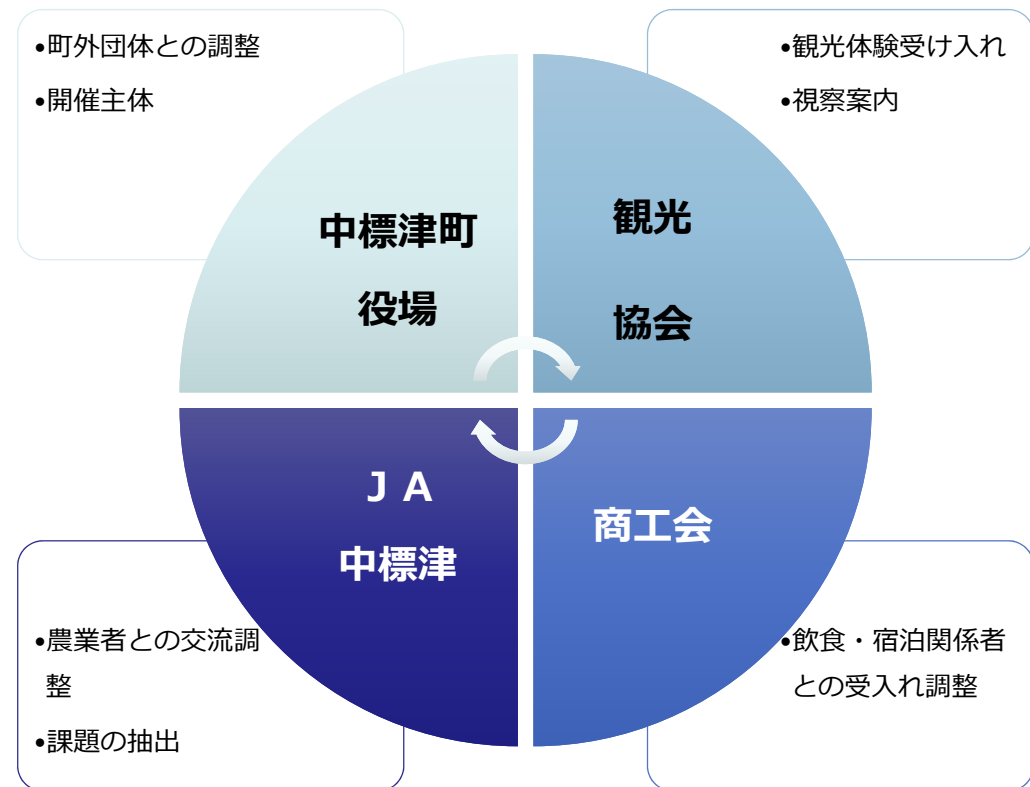
賞金総額 100万円



北海道大学

まとめ （地域に浸透させるために…）

- イベントの開催には、町内外の様々な関係団体の**連携・協働**が必要
- 結果を地域に共有するのが重要
- 地域内・外の**キーマン**の存在
- 地域内の**理解と協力**
（行政が丸抱えしないこと）
- 最終的な実装を意識すること
（アイディア倒れでなく**実現性**を重視）
- 結果を踏まえ、既存の団体と地域の理解を求めるが大事



様々なステークホルダーの理解が必要



まとめ

—現地調査（２回）—

町を歩き、地元の皆さんの声に耳を傾けました。

—課題の発見—

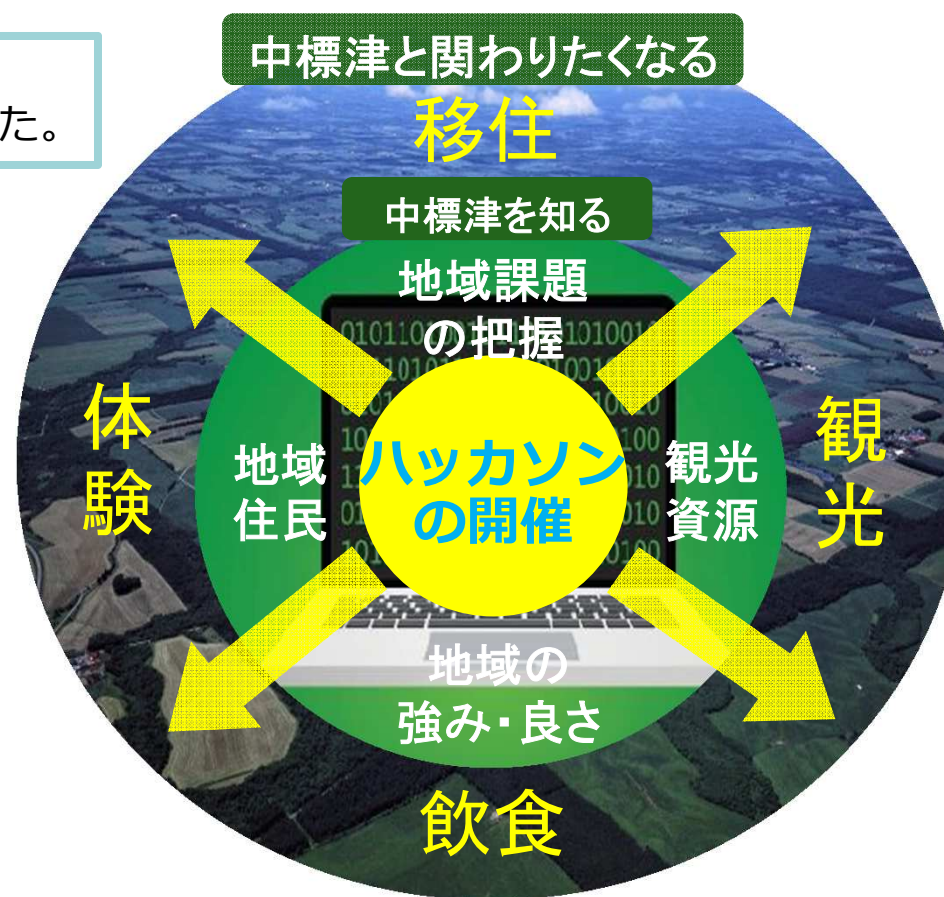
良くも悪くも、将来ずっと今の状況が続くとは限らない。

—課題解決に向けて—

ハッカソンでの新たな人や技術との出会い・発見が課題の解決への糸口になります。

**今、行動を起こすことが
未来の中標津の礎を築きます。**

**私たちは自信を持ってハッカソンを提案します！
10年後、20年後、さらに先の中標津のために...**



ご清聴ありがとうございました！

